

新年度予算を審議

29年度予算は「明日の風がみえるまちへ 未来志向型予算」と位置づけ、「地域の創生」、「まちの再生」、「人と人との共生」を目指した予算になっています。審議の中で出された内容の一部を紹介します。



29年度予算

一般会計	376億 1,300万円
一般的な用途で市民のために広く使われる	
特別会計	208億 520万円
病院や駐車場など特定の目的のために使われる	
企業会計	213億 8,670万円
利用者が負担する経費(水道料金等)によって運営される	
総 額	798億 490万円
前年度当初比0.3%(約2億円)の減	

経営管理政策分科会

◆防犯カメラ設置事業について◆ カメラの設置については、個人情報保護の観点からも取り扱いに充分配慮する必要があると考えるが、区・自治会が設置した場合の個人情報管理はどのようにするのか。

議員



市 県の補助で設置している防犯カメラについては、5年間の管理責任を負うが、地域の意向も踏まえながら、今後引き取りについても検討する。

◆シティセールス推進事業費について◆ 行財政構造改革を進める中で、三田市のブランド戦略をどのように考えているか。

議員



市 三田の魅力発信のために新しいブランドを作ることが重要。事業の選択と集中を行い、シティセールスは具体的な事業案の作成過程から市民等に発信する。

◆市民病院経営について◆ 平成29年度の支出見込み、入院収益の予定額に対する病床稼働率はどのようになっているか。

議員



市 平成29年度支出は一般会計からの借入を現金収支が不足した場合に備えて予算化している。また、入院収益の予定額は1日平均249名の入院患者で積算し、稼働率は83%になる。赤字額減少に向けて経営改善に取り組みたい。

福祉教育分科会

◆総合福祉保健センターについて◆ 平成29年度から障がい者団体の利用料減免が100%になるが、ボランティア団体についても減免を拡大してはどうか。

議員



市 今回の見直しは障がい者団体に限定したものであり、他の団体については今後の検討課題である。

◆三田市休日応急診療センターについて◆ 小児科医師不足は深刻であることから、近隣の済生会病院に医師の応援要請はできないか。また退職された医師2名が加わって改善されたのか。

議員



市 応援要請を交渉しているが現在はできないと言われている。加わった医師2名は高齢のため、再び小児科医不足とならないよう、今後に向けて対策を講じなければならない。

◆介護保険の総合事業について◆ 現在の介護利用者や利用していない市民に対して、どのように事業の移行に関する案内をするのか。

議員



市 移行は1年かけて認定期間の更新時期に順次行う。現在の認定者には既に案内をしており、新規にサービスを受ける市民には地域包括支援センターなどで説明していきたい。

生活地域振興分科会

◆ふれあい市民プールについて◆ 老朽化が激しく経費増大のため廃止の方向で検討されているが、1か所しかない市民プールを効率のみで判断し廃止するのはどうなのか。

議員



市 施設利用の期間が短期な上、維持管理の経費が年々増大しており、他の近隣施設の利用を考えるなど広域的に利用して頂きたい。

◆敬老月間推進事業費について◆ 平成29年度は敬老事業の補助を行うが、平成30年度は廃止と聞く。それに代わる事業は考えているか。

議員



市 お祝いの会を継続する方向から、生きがいや健康づくりへ変えていきたい。既存の事業なども含め今後検討していきたい。

◆新三田駅周辺の開発について◆ 駅東ロータリーを作ることで現在のロータリーの混雑は解消されるのか。また、現在のロータリーは駐車場の利用促進のためにも安全性を高める必要があるのでは。

議員



市 国道側からの車が東ロータリーに入りやすいため、利便性は向上すると考える。現在のロータリーは区画整理事業の整備に合わせ道路に関する警察協議も終了しており、今後改修事業を進めたい。

総括質疑

◆公営墓地の今後の在り方について◆ 年間の維持管理費750万円を墓地使用者からの管理料で賄うには、1,400区画必要であるが、現在800区画である。1,400区画を目指す事への抜本的な改革が必要ではないか。

議員



市 公営墓地のあり方について庁内ワーキングを設置して検討する。また合葬墓についても併せて検討していく。

◆ボランティアポイント制度の採用について◆ 介護分野に限らず、見守りや清掃、高齢者支援活動など様々な分野にボランティアポイント制を導入し、貯まったポイントを還元する制度を三田市でも導入してはどうか。

議員



市 元気な高齢者の創出や介護予防意識を高めることにつながるため、今後健康マイレージ事業を検討する中で、メニューの1つとする。

◆高齢者対策について◆ 高齢者率が25%となる平成33年度には事業費はいくらになるのか。健康年齢を伸ばすためには、生活習慣病予防や生きがいづくり、そして孤独化を防ぐ対策が重要ではないか。

議員



市 高齢者数は現在の1.5倍となり単純計算では90億円必要となる。本市は元気な高齢者が増える施策を実施しているが、今後新たなコミュニティの構築に努める。

◆教育、教育指導費について◆ 新学習指導要領では小学校3,4年生で英語教育が始まるとあるが、教育現場での対応やアクティブ・ラーニングへの準備や、市で行っている教育施策はどうか。

議員



市 年間35時間増となった授業時数について、協議し対応する。アクティブ・ラーニングについては、言語活動の充実に取り組むとともに、各学校や担当者会の研究支援を行う。本市の教育施策は、市独自で幼稚園から11年間を見通した英語教育を行っている。また、子供たちに寄り添う教育を行っている。

審議の結果は… 一部予算案については反対意見がありましたが、採決の結果、賛成多数で予算決算常任委員会を通過、その後の本会議においても反対討論、賛成討論が行われた結果、いずれも賛成多数(賛成18、反対3)で可決しました。その他の予算については全会一致で可決しました。



説明

*アクティブ・ラーニング：
教員による一方的な講義形式の教育と異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法